

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【徳力小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	「毎時間の振り返りの時間確保」「振り返りを生かす学習の設定」は、来年度も学校課題研究を通じて継続し取り組んでいく。学校統一を課題とする「次時の課題を設定する授業の流れ」については、作成予定の「学習のルール」で確かな手立てをしていく。また、書き込み式ドリルやドリルパークの活用、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習にも継続し取り組ませていく。家庭連携も図りながら、児童が主体的にどのツールで学ぶかを選んでいるようにしていく。	
思考・判断・表現	「評価の観点を示すこと」は定着してきたが、継続したり学年横断的にしたりでの実施はできていないことから、学校全体で「学びの仕方」を「学習のルール」で確かな手立てをしていく。どの学年でもICTを効果的に活用した授業を進めている。これは大変強みである。しかしながら、必要感のある課題設定、主体的に解決する場を設定することは引き続き課題とする。来年度の学校課題研究で授業づくりの柱の一つとして取り上げていく。 中間期見直しの「次の学習につなげる」「実生活につなげる」学習指導を行っていることは、機会は増えたが、取捨選択が必要であることから、デザインマップでより意識して取り組む単元を決め、学校共通理解で指導をしていく。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個別最適な指導の充実が足りない。反復・振り返り学習の時間が十分に確保できていない。	⇒ 学びの振り返りの時間を生かし、次時の課題を設定する授業展開にする。【毎時間】 書き込み式ドリルやドリルパーク、テストパークの活用や、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習に繰り返し取り組ませる。家庭学習にも取り入れる。【週に1度】 1人1台端末を活用し、児童主体の学びを行う。また、その授業の仕方を教職員で共有する。【1月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個別最適な指導の充実が足りない。児童主体の学習展開の機会が十分に確保できていない。	⇒ 話を確かに聞くことや表現することを指導の主題に置く。また、評価の観点を示すことで児童主体の振り返りを充実する。【毎時間】 ICTを効果的に活用した授業で、児童のわかた・できた・楽しいを引き出し、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもち自力解決する場を設定するなど、ICTを活用した振り返りを行い、学びの記録を蓄積する。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	年間を通じて、各単元で振り返りの時間と振り返りを生かす学習を設定した。次時の課題を設定する授業の流れについても定着してきている。また、書き込み式ドリルやドリルパークの活用、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習に継続し取り組めた。引き続き、児童がどのツールで学ぶかや学び方(個人・グループなど)を選んで主体的に学習できるようにしていきたい。 一人1台端末を活用し「学びの指標」を意識した児童主体の授業を行った。また授業実践を20回以上共有できた。中間期見直しの読書活動実践は本年度も実施でき、大変盛況であった。
思考・判断・表現	B	年間を通じて、学校課題研修で考えを表現する力の育成を指導の主題に置き授業改善できた。評価の観点を示すことは定着している。継続したり学年横断的にしたりでの実施は課題である。 どの学年でもICTを効果的に活用した授業を進めている。必要感のある課題設定、主体的に解決する場を設定することは引き続き課題としている。来年度の学校課題研究で授業づくりの柱として取り上げていく。 中間期見直しの「次の学習につなげる」「実生活につなげる」学習指導を行っていることは、機会は増えたが、どの学習でどのように取り上げるかを取捨選択する必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では「言葉の特徴や使い方にに関する内容で、漢字を文章の中で正しく使うことや文章からの情報の関係づけ語句と語句との関係の表し方に課題が見られた。算数の「図形」数と計算」領域においての課題がみられた。示された図形や情報、表を捉え、必要な数値を読み取り、式を表す力が不十分であると考えられる。また、学んだことを次に生かしたり実生活に結び付けることも課題となる。児童質問「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」の質問において強い肯定的な回答が少ない。個別最適で児童主体の学習を展開できるよう研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語の読むことの問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、文書全体の構成を捉えて用紙を把握することや文章と図表を結び付け必要な情報を読み取ることが難しい児童が多く、文章を読み取る力が不十分であると考えられる。算数では、基本図形に分割し面積を求める方法を、言葉や式に表すことや比例の関係を用いて求めたい数量を言葉や式で表すことに課題が見られた。問題文が長くなるほど、正答率が低くなる傾向もみられる。児童質問「自分の考えがうまく伝わらないように資料や文章、話の組み立てを工夫しているか」「次の学習や実生活に結び付けている」の質問において強い肯定的な回答が少ない。引き続き、同様の手立てを行うとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていくようにする。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語は3～6年において「言葉の特徴や使い方にに関する事項」に課題が見られる。昨年度の同一経年比較によると、6年で改善が見られたが、引き続き、漢字の読み書き、主語・述語・修飾語の関係等について繰り返し指導が必要である。算数は3～6年において「数と計算」「図形」「データ活用」、5～6年において「変化と関係」に課題が見られる。昨年度との同一経年比較によると、6年で改善が見られたが、引き続き、四則計算、小数、分数、速さ、平均等の学習を習熟することが必要である。中間期見直しの「読書が好き」の肯定的な回答の割合は、R6同集団より中学年は上昇し高学年は下降した。	
思考・判断・表現	算数は「知識・技能」と同様の傾向がみられる。特に時刻の読み方、表やグラフの読み取り、角の大きさ等を中心に、繰り返し復習し、習熟を図ることが必要である。得点分布に二極化が見られるため、引き続き、習熟度別少人数指導を工夫するなど、きめ細かい指導が必要である。全学年を通して国語の「読むこと」に課題が見られる。学校課題研究での取組として本年度「表現力」に比重を置いた授業改善をしてきた。「話す・聞く」ことの結果を見るとその成果は得ている。「考えを表現すること」以外にも「書くこと」に課題があると見られ、来年度の指導の柱を決定したところである。 「(教科)は好きですか」の肯定的な回答の割合はR6同集団より社会は概ね向上、国語・算数・理科・G・Sは伸びが見られなかった。また、「学習した内容について、次の学習につなげる」「学んだことを他の学習で生かす」の肯定的な回答の割合はR6同集団より横ばいであった。意識した授業改善を行い来年度高めていきたい。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎時間の振り返りの時間と振り返りを生かす、次時の課題を設定する授業の流れはおおむねできているが実践共有があまりできていない。 紙ドリルやデジタルドリルの活用や、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習に繰り返し取り組んでいる。 一人1台端末を活用し、「し・し・や・ク」を意識した学習者主体の学びをさらに実践し実践を共有していく。	⇒ 昨年度より強化した読書への取組や秋の読書まつりを中心に、読書活動を図る。【R7さいたま市学習状況調査「読書が好き」の肯定的な回答の割合がR6同集団より全て向上】
思考・判断・表現	B	昨年度の聞くことに加え表現する力の育成を主題に置き指導している。評価の観点を示すことは一部出てきているが、学校統一での実施はできていない。児童主体の振り返りが不十分である。ICTを効果的に活用した授業ができていない。必要感のある課題設定、解決の見通しをもち自力解決する場を設定することはまだ不十分である。学校課題研究として研修に取り組んでいく。	⇒ 左記の手立てを実施するとともに「次の学習につなげる」「実生活につなげる」指導を行っている。【R7さいたま市学習状況調査「学習した内容について、次の学習につなげる」「学んだことを他の学習で生かす」の肯定的な回答の割合がR6同集団より全て向上】